

注 意 報

農技セ第6512号
平成28年8月1日

各関係機関長 殿
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

平成28年度農作物病虫害発生予察情報について

平成28年度農作物病虫害発生予察注意報第1号を發表したので送付します。

平成28年度病虫害発生予察注意報第1号

平成28年8月1日
徳 島 県

普通期水稻では、7月前半からいもち病(葉いもち)の発生が平年に比べて多く、7月後半にかけて発生圃場数も増加し、発病度も高くなっています。一部の圃場では、稲体のずり込みや急性型病斑も確認されました。

高松地方气象台が7月28日に発表した1か月予報では、気温は平年並か高いが、湿った空気や気圧の谷の影響を受けやすい時期があり、平年に比べ晴れの日が少ないと予測されており、やや発生助長的な気象条件であることから、今後、穂いもちの発生が懸念されますので、注意報を発令します。

現地においては発生状況の把握に努めるとともに、適切な防除指導をお願いします。

作物名：水稻(普通期)
病虫害名：いもち病(穂いもち)

- 1.発生地域 県内全域
- 2.発生時期 8月上旬～
- 3.発生量 平年よりやや多い(前年並)
- 4.発生程度 中
- 5.注意報発令の根拠
(1)県内巡回地点(29地点)におけるいもち病(葉いもち)の発生状況
①7月3半旬(7月11日～13日調査)
発生圃場率が51.7%、発病度が5.4で、平年(27.2%、2.3)に比べて高い(表1)。

表1 7月3半旬の普通期水稻におけるいもち病(葉いもち)発病調査結果

地域*1	発生程度別圃場数					発生圃場 率(%)	発生程度 指数*2	発病度	
	無	少	中	多	甚				合計
北中部	4	10	1	1	0	16	75.0	23.4	7.9
西部	10	0	1	0	0	11	9.1	4.5	2.5
南部	0	2	0	0	0	2	100.0	25.0	7.5
計	14	12	2	1	0	29	51.7	16.4	5.4

*1 北中部：鳴門市、板野郡(藍住町、板野町、上板町)、阿波市(吉野町、土成町、市場町)、
吉野川市鴨島町、名西郡石井町
西部：美馬市(協町、美馬町)、東みよし町、三好市三野町
南部：阿南市(加茂町、大野町)

*2 発生程度指数= $\frac{(\text{少} \times 1 + \text{中} \times 2 + \text{多} \times 3 + \text{甚} \times 4)}{\text{調査圃場数} \times 4} \times 100$

② 7月6半旬(7月26日～29日調査)

発生圃場率が69.0%, 発病度が8.1で, 平年(56.9%, 6.0)に比べてやや高い(表2)。

表2 7月6半旬の普通期水稻におけるいもち病(葉いもち)発病調査結果

地域	発生程度別圃場数					発生圃場 率(%)	発生程度 指数	発病度	
	無	少	中	多	甚				合計
北中部	3	10	2	1	0	16	81.3	26.6	9.5
西部	5	5	1	0	0	11	54.5	15.9	7.3
南部	1	1	0	0	0	2	50.0	12.5	1.5
計	9	16	3	1	0	29	69.0	21.6	8.1

(2) 高松地方気象台が7月28日に発表した1か月予報では, 平年に比べて晴れの日が少なく, 湿った空気や気圧の谷の影響を受けやすい時期があり, 降水量は平年並か多く, 日照時間は平年並か少なく, 気温は平年並か高いと予測されており, やや発生助長的気象条件である。

6. 防除法等

- (1) 葉いもちの発生が多い場合は, 特に急性型病斑が認められる圃場では, 穂いもちに移行する可能性が高いので薬剤防除を行う。
- (2) 穂いもちの防除適期は, 出穂直前および穂揃期である。農薬の使用基準を確認の上, 粒剤の場合は, 出穂10日前までに, 液剤の場合は出穂直前までに薬剤防除を行う。
- (3) 窒素質肥料を過用しないこと。特に, 出穂前後の窒素過多は穂いもちが発生しやすくなるので, 穂肥, 実肥の施用時期・量に注意する。
- (4) 防除等の詳細については, 徳島県植物防疫指針を参照するとともに, 薬剤の使用に当たっては, 必ず農薬ラベル記載事項を遵守する。



図1 いもち病による稲体のずり込み



図2 いもち病斑(急性型)



図3 穂いもちによる被害の様子



図4 穂首部が罹病し白穂になった稲